

やっぱり 看護が好き

鼎・談

復帰への第一歩は復職支援研修で

Interview これからの看護

療養を組み込んだ
新しい生活環境を創造する

特別インタビュー

在宅医療・介護の時代に
求められる看護師像

おすすめ研修
新人看護職員研修
平成26年度研修(ご案内)

河崎 広一さん 訪問看護ステーションI・Me／居宅介護支援事業所I・Me所長 看護師・介護支援専門員

療養を組み込んだ 新しい生活環境を創造する

本誌の巻頭を飾るこのシリーズ、男性の登場は初めてです。看護師という職業選択にはドラマチックな経緯があったのでは、そんな勝手な思い込みを胸に取材にうかがいました。

「私は、看護師になったきっかけではないのです」。病院に就職したものの、自身が医療の現場に立つことは考えもしなかった河崎さん、思いがけないことに看護助手として病棟に配属されます。戸惑いつつも働きながら看護師の資格を取得。しかし、男性として、看護師という職業を受け入れることができず、漠然と創造的な仕事に憧れていたといいます。看護師を辞めてしまおうかと考えていた、ちょうどその頃、訪問看護に出会います。

I・Me（アイミー）は、社会福祉法人 徳心会が、羽村市初の訪問看護ステーションとして、1999年JR羽村駅前のスーパーマーケット2階に開設しました。その後、2007年に小作駅前に移転、介護保険の認知度を上げるという当初の役割を果たし、09年小作駅から徒歩5分の現在の場所に移転しました。現在、看護師9名、理学療法士1名、介護支援専門員2名が在籍し、居宅介護支援事業所としても機能しています。

河崎さんが同級生の紹介で、同ステーションで働き始めたのは05年1月。退職が決まっていた前所長からわずか3カ月間で仕事を引き継ぎました。同じ頃、経理担当者も退職し利用者も減少します。「必然的に経理や営業の仕事にも携わりました。でも、看護師を続けるか迷っていた自分にとって、これら初めての経験はむしろ歓迎でした。」

本当の意味で、訪問看護師の河崎さんが誕生するきっかけになったエピソードを話してくれました。それは、訪問看護師

として初めて担当した70代女性のケースです。肺がんの入院治療から在宅療養に移行するにあたり、患者さんご主人から、「何ができますか」と質問されました。返答に窮した河崎さんに、ご主人は約1時間にわたって強い口調で入院治療への不満や在宅移行への不安をぶつけられたそうです。このとき、「看護師として何ができるだろうと初めて自分に問いかけた」といいます。河崎さんは、ご家族と一緒に考え懸命に療養環境を整えました。

「病院では、指示に従ってきただけで自ら何かをしたいと思ったことはありませんでした。でも訪問看護は、自分がしたいと思えばその方法を知っていれば、できることが多くあると気づきました」。患者さんご家族のためにもっと多くのことをと、河崎さんは介護支援専門員の資格を取得します。「看護師は、患者さんの病態やご家族の事情などを一番よく把握できます。医療・看護・介護の全てに関わることができるのも看護師だからこそ」。

そして、気がついたのは、「療養を組み込んだ患者さんご家族の新しい生活環境を二から考えて創

り出す」という、創造的な仕事に携わっている自分がいたことです。

今後の抱負は、「リハビリテーションの専門家をスタッフとして迎え、包括的・総合的に療養を支えることです。当ステーションはこの10年で基礎が固まってきました。次の10年はもう少し広がりをもった業務を展開していきたいですね。」

最後に、復職先として訪問看護ステーションを考えている方へのメッセージをお願いしました。

「訪問看護の仕事で大切なのは、患者さんご家族のニーズを第二に考えることです。そのニーズは、何度も訪問するなかで時間をかけて少しずつ引き出されてくるものだと思います。その意味で、人が好きという方に訪問看護師は向いていると思います。また、幅広い年齢層と領域に関わる必要がありますので、自分がどうなりたいかを考えて取り組むと、良い仕事ができると思います。興味をもったらずび実行に移してください」。



プロフィール

河崎 広一（かわさき こういち）

1973年石川県生まれ。98年戸田看護中央看護学校第二学科卒業後、神経内科病棟および回復期リハビリ病棟勤務を経て、2005年より訪問看護ステーションI・Me管理者。09年より在宅ケアサービスI・Me所長。I（私は）Me（私）という名称には、個人と個人のつながりを日々大事にするという意味が込められている。

おすすめ研修

新人看護職員研修

2日間コース
4日間コース

●対象者…免許取得後はじめて、平成25年度に都内中小規模施設に入職の看護職

●1回定員…2日間コース60人
うち30人は4日間コース

●実施日時…7月3日(水)・4日(木)
4日間コースは11日(木)・12日(金)も。9:30～16:30

●主な内容と講師

①保健医療の動向／安藝佐香江先生

②看護倫理／吉田千文先生

③診療情報の取扱いと看護記録／平ちひろ先生

④接遇・コミュニケーション／田口ヤス子先生

⑤感染管理／佐藤智恵子先生

⑥医療安全・防災／駒木根由美子先生

⑦フィジカルアセスメント・急変時の対応／原田恭子先生、山崎直人先生・斉藤徳子先生

新人看護職員の方を対象にした、看護基礎教育を臨床実践能力に活かすための研修で、主な内容の①～④は2日間コース・4日間コースとも共通です。仕事を始めて約3カ月、朝から夕方まで講義漬けの日は久しぶりという受講者が多かったようです。これから遭遇する可能性のある具体的な事例をあげた講義に目を輝かせて聞き入ったり、グループワークで打ち解けた仲間たちと昼休みに情報交換し合ったり、充実した研修期間過ごしました。

この研修は、生涯にわたって続く研鑽の第一歩です。講師の先生方はほとんどが同じ看護の道を行く先輩。「皆さん良いナースになるよう目標をもつて頑張ってくださいね」。後輩たちに向けて優しいまなざしが印象的でした。

平成26年度研修について(ご案内)

東京都ナースプラザでは、医療を取り巻く社会の変化に対応できる看護職員の育成を目標



看護職を取り巻く社会の現状と求められる看護師像。安藝先生の講義



患者さんへの対応をグループに分かれてディスカッション中。指導は吉田先生



看護記録は患者さんにとって大切な記録です。平先生の講義



田口先生の研修はコミュニケーションの実践から学びます。

に、毎年研修を見直しています。26年度は、高齢者施設関連研修に「高齢者介護施設におけるスキンケア」、「高齢者介護施設におけるリスクマネジメント」を追加しました。また、在宅・地域看護関連研修には「在宅でのエンゼルケア」、「在宅での精神科疾患の理解と訪問看護」、「在宅における排泄ケアの基本」を追加します。そして、上記「新人看護職員研修」については、施設からのご要望にお応えし、「薬の知識(半日)」、「心電図の読み方・取り方(半日)」を加えました。詳細につきましては、研修計画(冊子・一覧表)やホームページ等をご覧ください。ご応募をお待ちしております。

新しい「スギ花粉症の治療

東京都内のスギ・ヒノキ花粉の飛散は2月2日から始まりました。この時期つらい思いをされている多くの方にお見舞い申し上げます。

さて、今年始め、スギ花粉症の治療に動きがありました。唯一の根治療法である減感作療法用の新しいスギ花粉エキスを、1月17日に認可されたのです。なが新しいのかというところ、これまで皮下注射薬しかなかったため、長期間通院して何度も注射

を受けるしか方法がなかった減感作療法用が自宅でも可能になることです。舌下免疫療法といい、舌下に原因アレルゲン(新しいスギ花粉エキス)を滴下するという治療法です。この薬は間もなく健康保険適用となり、約70%の人に症状の消失や軽減などの効果がみられたといえます。

国内で50年前に報告されて以来増加の一途をたどり、国民病とまで称されるこの病、これを機に減少に転じるのか、注目されます。



参考

http://www.tokyo-eiken.go.jp/kj_kankyo/kafun/

岩崎 由美子さん

〔医療法人社団葵会介護老人保健施設 葵の園・江東区〕

中田 要枝さん

〔社会医療法人社団健全会立川相互病院
にしき訪問看護ステーション〕

須釜 なつみ所長 〈司会〉

〔東京都ナースプラザ〕

東京都の復職支援研修では、経験やスキルに合わせて選べる支援プログラムⅠ～Ⅲ型を用意しています。その後の実習では訪問看護ステーションの仕事も経験できます。今すぐ復帰を目指すあなたも、いつかは復帰したいあなたも、この研修で、まずは第一歩踏み出してみませんか。

復職支援研修を受けるまで

須釜 今回おいでいただいたのは、復職支援研修（以下、支援研修）を一般病院で受けられ、その後それぞれ訪問看護ステーションと介護老人保健施設での実習を経て復職されたお二人です。これまでのご経験などはプロフィール欄も参照いただくとして、まず、この研修を受けようと思った理由を教えてくださいいただけますか。岩崎さん、いかがでしょうか。

岩崎 私は23年という長いブランクがありました。その間ずっと専業主婦でしたが、やはり社会に出て働きたいと考えたようになります。でも、看護師はとも無理だろうと諦めていました。どうしようかと考えたとき、お年寄りの介護ならできるかもしれないと思いました。そこで、介護職員として5年間、特別養護老

鼎談
やっぱり看護が好き

復帰への第一歩は 復職支援研修で

人ホームで働いていました。介護の仕事はとても楽しかったのですが、そこで働いている看護師さんたちの姿を見ていて、やはり、どうしても看護師をしたいと思うようになりました。それが支援研修を受けた理由です。

須釜 まず、介護の仕事をされたのですか。

岩崎 はい、遠回りのように感じましたが、介護の仕事から得たものはすごく大きくて、本当に勉強になりましたし、あの経験があったからこそ今があると考えています。

須釜 支援プログラムはⅢ型（7日間）を受けられたのですか。

岩崎 はい、7日間の研修を東京臨海病院で受けました。

須釜 中田さんはどんな理由ですか。

中田 私も離職期間が8年ほどありました。子育てをしながら働くことへの不安がありました。が、復帰することは決めていたので、研修を受けました。立川相互病院を選んだのは、自宅から近かったことに加え、託児所があったことが大きかったです。下の子がまだ2歳でしたので。

須釜 小さいお子さんがいる方にとって、託児所があることはとても重要ですね。上のお子さんは？

中田 5歳で幼稚園の年長でした。研修を途中抜けさせてもらって迎えに行き、上の子も託児所で預かってくださいました。当初は5日間の研修

を希望して始めたのですが、途中でどうしても長くやりたくなくて7日間に変えてもらいました。

須釜 お子さんたちは、研修の間大丈夫でしたか。

中田 上の子は大丈夫だったのですが、

下の子は私から離れるのが初めてだったので、夜中に吐いたりして、ちょっとたいへんでした。

須釜 それでも7日間の研修を終えて、さらに次の実習にチャレンジされたのですか。

実習から就職へのステップ

須釜 実習先はどうやって決めたのですか。

中田 研修が終わったとき、実習ができる訪問看護ステーションの一覧表をいただいたのですが、立川相互病院の隣に同法人で運営しているにしき訪問看護ステーションがありました。託児所に下の子が慣れたところでしたし、病院の姿勢にも好感が持てたので、そちらで実習をお願いしました。

須釜 中田さんはそのまま実習先に就職されたわけですね。岩崎さんも研修後に実習を受けられていますか。

岩崎 はい、介護老人保健施設めぐみで2日間の実習を受けました。自宅から遠かったのですが、透析施設もあつていろいろな勉強ができそうだなと



プロフィール

岩崎由美子さん「ブランク約23年」
看護学校卒業後総合病院の病棟勤務。1年10カ月後に結婚退職し、以降23年間家事と育児に専念。3人の子ともすでに成人しており、昨年の11月には初孫が誕生。介護職員として都内の特別養護老人ホームに5年間勤務。東京都の看護職復職支援研修の支援プログラムⅢ型（7日間）受講後に介護老人保健施設実習を経て復職。

中田要枝さん「ブランク約8年」
看護学校卒業後総合病院の病棟勤務を経て訪問看護ステーションに勤務。結婚後に退職し、以降8年間家事と育児に専念。小学生と保育園児の2児の母。東京都の看護職復職支援研修の支援プログラムⅢ型（7日間）受講後に訪問



中田さん

思って選びました。遠くとも2日間なら通えると思ったのです。でも、実習を受けてみて看護体制などもしっかりしていることがわかり、それがとても気に入りました。ちやうど悩みましたが就職を決めました。7カ月間働いたのですが、往復の2時間がだんだんきつくなってきました。専業主婦が長かったので、家事も手を抜けないという融通のきかないところがあつたので、かなり疲れてきました。行き帰りの電車は読書の時間にあてたかつたのに、眠くてそれとこでなない。こんな状況でいいのかなと疑問に思うようになりました。「すみません。やっぱり近くに就職します」ということで、現在の施設に移って半年になりました。

須釜 働き始めて2時間はかなりきついです。7カ月もよく頑張りましたね。

岩崎 とてもよくしていただきました。研修の2日間も師長さんが、できる限りいろいろなことを経験させてあげる、とおっしゃってください、研修施設としてもとてもいいところです。

須釜 施設の師長さんやトップの方の考え方がよかったですね。研修や実習の中でスタッフの方たちがどんなふうに関心してくれるかというのは次のステップに進めるか否かを左右するくらい大きいですよ。

いまお勤めのところはご自宅の近くですか。

岩崎 はい、すぐ近くです。いざというときにすぐに動けるといってもありますし、第一条件だと思います。

ブランク中の人生経験を活かして

須釜 中田さんは復職されて9カ月ほどたちますが、今お仕事をされていますか。

中田 離職前も在宅をやっていたのですが、在宅が好きで自分に合っていることを再認識しています。利用者さんのお家で、その方

の存在と出会えることが楽しいです。さまざまなことが離職前と変わっていますので、いつも周りの方に教えていただきながら歩んでいる感じです。

須釜 訪問看護ステーションの仕事は、これまで家庭や地域の中で得た経験が活かせる現場ではないかと思えます。

中田 そう思います。私は、医療者や看護師は「普通感覚」を持つていたほうがいいと思っています。そういう意味で、子ども・家族を持ち普通の生活をしてきたからこそ、見えてきた大きなことがたくさんあります。

須釜 岩崎さんは復職されていかがですか。

岩崎 ブランクが長かったので、今でも不安はありますが、わからないことは聞いてやっています。若い人も関係なく、私は先輩として頼りにしていますし、みんなよく教えてくれます。これまでの経験は、利用者さんの話し相手になるときに役立っていると思います。私は、もともとお年寄りが好きなので、利用者さんとはよく話をしています。

須釜 お二人とも家庭や社会での経験を十分活かしてお仕事をされているようですね。

岩崎 子育てをしているときに、いまだた若いう頃よりいい看護師になれたかなと思ったことがあります。いろいろな経験で視野が広がって、人を見る目も接し方も違ってきます。それは看護の仕事にも活かせるものではないか、という気持ちはずっと持っていました。

須釜 ブランクと引き換えに、じつは多くのものを手に入れているということですよ。技術や知識は仕事を続ける中で少しずつ確実に蓄積されてきます。毎日の積み重ねは大切ですよ。

家族の協力あればこそ

須釜 中田さんは今まさに子育て中なわけですが、お子さん方はもうお母さんが働きに出ることに慣れましたか。

中田 いまは慣れてきたと思います。就職が上の子の小学校入学と同時にしたので、1学期の間は上の子も学校に慣れていませんでしたので、ちょ

と大変でした。2学期に入ってから学童が楽しいようで、落ち着いています。

須釜 ご主人も理解してくださっていますか。

中田 主人はどちでもいいよ、という感じですが、協力してくれています。

岩崎 うちは、最初は反対していました。いつも、「いつ辞めるの？」って。(笑) いまはようやく諦めて、家事も結構手伝ってくれるようになりました。介護の仕事が始めたときは2番目の子どもが浪人生だったのでよく家事を手伝ってくれて、それがすごく助かりました。そこで徐々に自分のペースでできるようになりました。やはり、家族の協力は大きいですね。

須釜 復帰のために研修や実習に行くことをお話しされたときも、ご家族は協力してくださいましたか。

岩崎 子どもは私が外に出て行くのに賛成してくれていましたので、頑張つてねと協力してくれました。私を見ていたせいか、専業主婦はいやだと言います。女性も外で働かなくちゃ、と。(笑)

復帰してよかったと思うとき

須釜 お子さんは、看護師の資格をもっているのにもつたいないと思つていたのでしょね。

岩崎 専業主婦をしてるときはすごく肩身が狭かったのです。一生これで終わるのかなという気持ちがありましたし、それなら、家事くらいはきちんとやらなければという思いが強かったのです。が、今は少々手を抜いても、私も仕事をしているのだから、という感じです。やはり外に自分の世界を持つのはとてもいいことだと、この年になって気づきました。

須釜 収入があるということももちろん自信につながりますが、仕事を持つ



看護ステーション実習を経て復職。

須釜なつみ所長

東京都内大学附属高等学校卒業後、大学附属病院、厚生連病院での勤務を経て、都立病院に就職。同院看護科を経て都立小児総合医療センター看護部長。同院退職後、東京都ナースプラザの就業協力員を経て、13年4月より東京都ナースプラザ所長。

て社会につながるということが大事なのでしょうね。

岩崎 特に看護の仕事は誰かの役に立てるという気持ちもありますから、逆に元気をいただくところがあります。

須釜 仕事を始められて、生活にメリハリがついてきたのではないのでしょうか。それと、家事はどんなにやっても切りがないですから、どこかでうまく手を抜くことも大事なことだと思いますよ。

岩崎 仕事をするようになってからのほうが、時間を効率よく使えるようになったと思います。

中田 私も生活にメリハリができました。

岩崎 子育てをしている頃、「よく専業主婦をやっているね。仕事しているほうが楽よ」と言うお母さんがいたのです。私としては、仕事をしながら子育てなんて、とてもできないと思っていたのですが、彼女の言っていたことが今はわかります。仕事をしながら小さい子を育てるのは、肉体的には大変かもしれないけれども、精神的にはいいのではないかという気がします。私は経験しませんでした。

中田 それはよくわかります。1日中子どもと一緒にいて子どもに振り回されていると、かわいいと思えない日が出てきてしまうことがあります。本当はかわいくて愛しているのだけれど、煮詰まってしまう状態なのだと思います。でも、仕事を始めたら、離れる時間があつて会うからすごくかわいんです。単純にかわいいと毎日思えるから、それだけでもすごく楽になったと思います。

須釜 お母さんが、「会えてうれしい、かわいい」と思っていることは、ストリートにお子さんに伝わっていると思います。

中田 今思い出したことがあります。上の子に仕事を始めることを話したときのことですが、「看護師なんだよ」と言ったところ、「うちのママは看護師さんなんだ」とあちこちで宣伝してくれて……。(笑)

須釜 医療に関するテレビドラマなどもあり、看護師という仕事のイメージもわかりますし、お子さんにとってもママの活躍はうれしいでしょうね。

復職を目指すあなたへ

須釜 現在離職中で、これから就職したいと思っているけれども不安に思っている方にアドバイスをお願いしたいと思います。

中田 支援研修はすごくいいと思います。復職したいと思ったときに、いきなり病院に面接に行けるかといったら、それは難しいと思います。その職場がどんな感じのところなのか、病棟の雰囲気も病院によつて違いがあります。それを面接というかたちではなく、ちよつと覗きに行けるという意味でもおすすめです。

研修で最初に病棟に入りましたが、子育てをしながら働いている人が、思っていた以上にたくさんいたことがうれしい驚きでした。子育てしていることを理解してもらえらるだろうか、という不安が一番大きかったのですが、それが払拭されました。病院が積極的に受け入れていることがよくわかったからです。その意味でも、支援研修を受けて本当に



左から：中田さん、須釜所長、岩崎さん

よかったです。案ずるより生むが易しという感じですか。

中田 そうですね。支援研修を受けてみてから考えてもいいのではないかと思います。

須釜 岩崎さんはいかがですか。

岩崎 つい先日、35歳ぐらいの男性看護師の方が事業所に入職してきました。彼は3年間看護から離れ、全く別の仕事をしていて、3年間ブランクがあつたから、支援研修を受けようかと悩んだといいます。23年の私から見たら、3年なんてブランクのうちに入らないと思うのですが、たつた3年看護から離れたただけでも復帰への不安が生じるのですね。ですから、現在離職中の方たちも、おそらく一番のネックは「復帰への不安」で、復帰したいという気持ちがあつても自信がないということがまず先に立つと思います。でも、少しでも復職したいという気持ちがあるなら、まず一歩踏み出したいのだと思います。踏み出さなければ何も変わらないのですから。ブランクがあればこそ、また違う目で看護の仕事を見ることができそうですし、その目から見ると、非常にやりがいのあるいい仕事だと思います。

須釜 今はいろいろな働く場や働き方があります。自分に適したところをじっくり探して、週1回から始めてみるのもいいと思うのです。慣れたら少しずつ増やし、週2日・週3日にするといった方法もあります。ぜひ支援研修で第二歩を踏み出して、お二人に続いていただきたいと思います。

今日はとてもよいお話をうかがいました。お二人の復職がかなつて本当によかったです。



在宅医療・介護の時代に 求められる看護師像

嶋森 好子
会長

(東京都看護協会)

厚生労働省が元旦に発表した人口動態統計では、昨年1年間の自然減（死亡総数から出生総数を差し引いた数）は24万4千人と推計されています。7年連続減に加え、最大の減少幅の更新となりました。東京都の人口もオリンピック開催の2020年をピークに自然減に転じると推計されています。そして、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、65歳以上の高齢者人口が30%を超える超高齢社会を迎えます。予見される在宅医療・介護の時代の到来。それを支えるのは訪問看護です。そこで求められる看護師像について、嶋森会長にお聞きします。

病院と地域医療をつなぐ退院調整看護師

「高齢者には、入院して手術を受け病気が治癒しても、筋力低下等で動けなくなる、認知症状が生じるといった特有の問題があります。さらに、入院期間の短縮によって、自宅での療養に対する不安を抱えながら退院する患者さんが増えていますので、在宅療養・介護にスムーズに移行できるよう調整する人材が必要です」

東京都看護協会では、その役割を果たす退院調整看護師を育成するために、5日間の退院調整看護師育成のための研修を開始しました。この研修には、定員の倍以上の応募があります。内容は、具体的な退院調整に必要な講義の他、グループワークや実習など、充実したプログラムを組んでいます。

「退院調整看護師に求められる役割は、入院時から、退院後を見据えて、アセスメントを行い、入院中の患者さんのマネジメント計画を立てることです。そのためには、患者さんの病態を的確に評価し、機能低下などの変化を予測して、これを予防するための計画を立てることが重要です。退院時に、機能低下が予測される場合には、退院後の生活に必要な地域の資源の利用方法などを考え、ネットワークにつなげるなど、サポート体制を整えます。これらを実行するためには、看護のスキルに加えて、コミュニケーションやコーチング、マネジメントなどの幅広いスキルが必要になります」。



ジェネラリストとスペシャリストの連携

近年、専門・認定看護師や特定能力研修制度による看護師など、専門性の高い看護職に注目が集まっています。高齢者医療においても、口腔ケアや褥瘡ケア、嚥下リハ、呼吸器リハなど、特殊なスキルを備えたスペシャリストに期待が寄せられています。

「それに加えて、患者さんにしっかりと寄り添う、広く深い知識と技量を持ったジェネラリストとしての看護師の役割が必要不可欠です」と嶋森会長は強調します。

「最近の在宅ケアでは、たとえば、看護師が自ら患者さんの嚥下機能を評価し、必要に応じて摂食・嚥下障害認定看護師などのスペシャリストに支援を要請して誤嚥性肺炎の予防につなげるといったケースマネジメント能力が求められるようになりました。高齢者が増えるほど、そうした場面も増えていくことが予測されます。患者さんの状態に応じて種々のスペシャリストと連携できる、高い能力を持ったジェネラリストの存在が、今後はますます重要になってきます」

東京都看護協会の取り組み

東京都看護協会では、前出の「退院調整看護師養成研修」を実施する一方で、東京都から委託を受けて、在宅療養相談窓口担当者（看護職他）を対象にした「在宅療養支援員養成研修」を開催するなど、切れ目のない医療連携の推進を目指しています。また、この1月には、看護職を含む都民に向けた「訪問看護フェス

ティバル「聞いてみよう！使ってみよう！なってみよう！」を開催しました。そこで、訪問看護の実際や重要性、魅力をPRし、在宅療養を支える訪問看護に対する理解の促進と人材確保のための活動を行いました。

厚労省は、『安心と希望の医療確保ビジョン』（厚生労働省）を示しましたが、これからの高齢社会では、“病気を治し支える医療”が求められます。看護師等のスキルを高めて在宅ケアをサポートするとともに、保健・医療・福祉の推進機関としてさまざまな事業を展開していきたいと思っています」

看護管理者の方へ

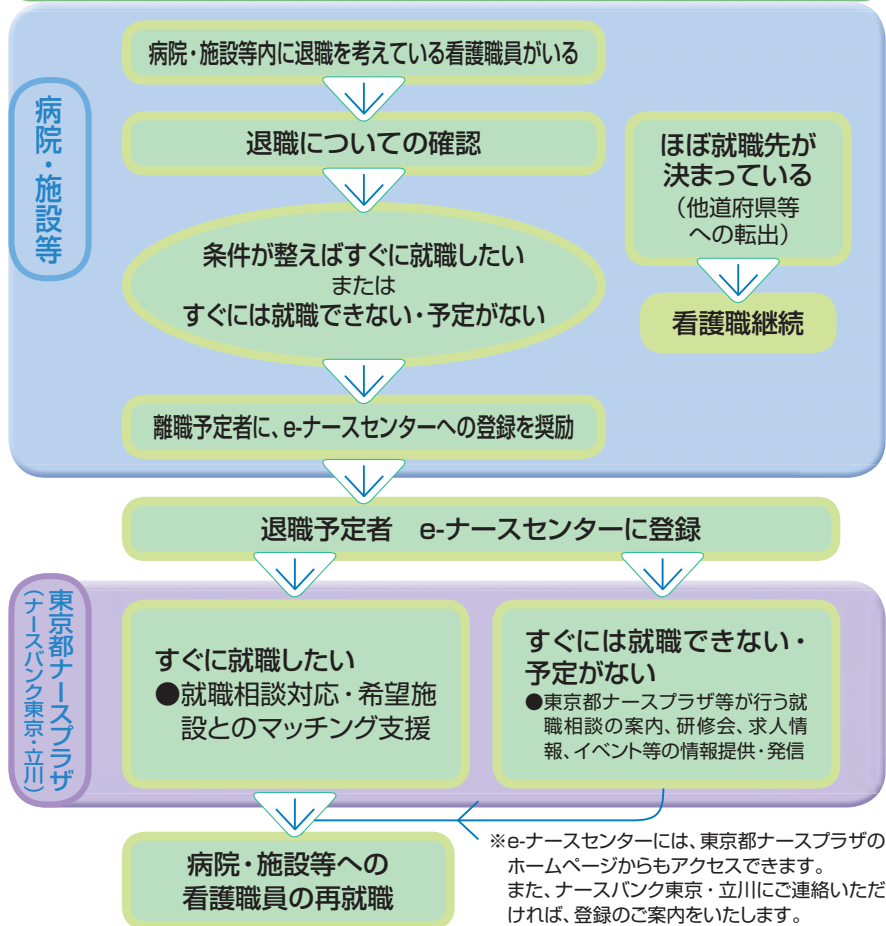
看護職の潜在化防止のためにご協力ください

皆様が統括している病院又は施設等で、退職を希望されており今後の予定が決まっていないうちに、e-ナースセンター (<https://www.nurse-center.net/>) への登録を助めてください(ナースバンク東京・立川への求職登録)。ネット環境のある場合には、自宅から簡単に求職登録ができます(下記図参照)。また、ご本人の了解が得られれば、ナースプラザからご連絡を差し上げることも可能です(記入式求職票の送付等)。

看護職の無料職業紹介事業所であるナースバンク東京・立川から、再就職に役立つ情報をお届けいたします。看護職員の潜在化を防止し、看護職としてのキャリアを積み重ねられるように就業支援をするのがねらいです。ぜひご協力ください。



退職予定者へのe-ナースセンター登録奨励から、ナースバンク東京・立川による再就職支援までの流れ



つれづれ……

今年は午年。「何事もウマくいく」という縁起のよい年だそうですが、駿馬は足が速いので注意が必要です。「やるべき時にやっておくこと」を大切に、この1年を過ごしましょう。

本誌が読者の皆様のお手元に届く3月の呼名は、弥生以外にも、花月、嘉月、花見月、夢見月、桜月……と、素敵な名があります。卒業式や異動など新生活を始める方にとっては準備の月です。今年の看護師国家試験は2月16日、合格発表は3月25日です。看護学生にとって将来への夢と希望に満ちた季節ですが、施設側も新しい出会いが待ち遠しい月です。

ご存知ですか？ 東京都ナースバンク(東京・立川)は看護職の無料職業紹介所ですが、困ったときの相談にもついています。就職後に悩んだとき、潜在看護職の方、離職中の方、ぜひナースプラザへの来所をお勧めします。相談員が貴方のサポートをします。

(N・S)

●都内で12番目に多い街路樹● ユリノキ

表紙イラストの「ユリノキ」は、こんな木です。

ユリノキは北アメリカ原産のモクレン科の落葉高木で、わが国への渡来は明治初期です。和名の「百合の木」は属名からとられていますが、花の形はむしろ種小名のチューリップを思わせ、英名もチューリップツリーといいます。葉の形からは梓樹木や軍配の木などとも呼ばれます。花期は晩春で、薄緑色にオレンジ色の斑紋が特徴的な可愛らしい花を咲かせます。カラスが豊富な蜜を目当てに花をちぎるので、樹下に花がちらばっていることがあります。早く成長するのも特徴で、最初に植栽された新宿御苑中央広場の3本は高さが40メートルもあります。迎賓館前のスクスクとした並木は新宿御苑の木の実生から育てた二世なのだそうです。



ACCESS

ナースバンク東京

- JR中央・総武線 飯田橋駅東口から徒歩7分
- 東京メトロ東西線・有楽町線・南北線 飯田橋駅 出口B1から徒歩6分
- 都営大江戸線 飯田橋駅 出口C1から徒歩5分
- 都営大江戸線 牛込神楽坂駅 出口A3から徒歩5分

ナースバンク立川

- JR中央線・青梅線・南武線 立川駅南口から徒歩10分
- 多摩都市モノレール線 立川南駅から徒歩8分

東京都ナースプラザ

検索

- ホームページ:<https://www.np-tokyo.jp/>
- Eメール:np@np-tokyo.jp